令和２年度・令和３年度　障がい者生活支援センター集計（４月～６月）同月間比

【資料９】

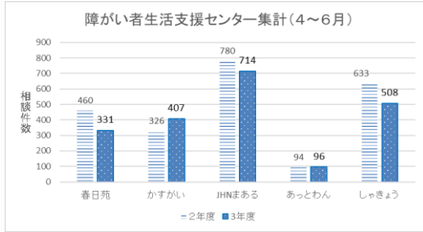
①支援内容別	春日苑				かすがい				ＪＨＮまある				あっとわん				しゃきょう				合計			
	２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度	
電話による相談	141	141	115	118	68	79	146(37)	161(39)	333	333	271	271	37	39	43	43	238	240	134	135	817	832	709	728
メールによる相談	0		3		11		15(2)		0		0		2		0		2		1		15		19	
来所による相談	0		1		5		8(0)		73		50		12		25		35		18		125		102	
家庭訪問	54		39		36		32(0)		36		62		0		2		48		24		174		159	
他機関への同行	7		8		7		26(0)		25		33		2		1		18		23		59		91	
面談	11		8		15		8(1)		8		8		2		3		10		27		46		54	
他機関からの相談	6		1		33		23(1)		19		20		24		14		31		25		113		83	
連絡・調整・確認	218		152		143		127(11)		284		268		15		8		241		251		901		806	
申請代行	23		4		3		7(0)		2		1		0		0		10		3		38		15	
その他	0		0		5		15(1)		0		1		0		0		0		2		5		18	
合計	460		331		326		407(53)		780		714		94		96		633		508		2,293		2,056	

※（）は地域生活支援拠点等の件数

②ニーズ別	春日苑				かすがい				ＪＨＮまある				あっとわん				しゃきょう				合計			
	２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度		２年度		３年度	
福祉サービスの利用	82	302	30	170	65	99	82(13)	108(15)	74	283	74	200	54	82	50	62	244	346	245	359	519	1,112	481	899
制度の利用	191		138		29		26(2)		205		125		8		8		67		56		500		353	
計画相談・セルフプラン	29		2		5		0(0)		4		1		20		4		35		58		93		65	
障がいや症状の理解	2	56	2	55	19	71	1(0)	99(4)	93	266	128	313	0	14	0	5	3	75	7	70	117	482	138	542
健康・医療	54		53		52		98(4)		173		185		14		5		72		63		365		404	
不安の解消・情緒安定	53	74	62	86	52	89	62(5)	115(8)	303	389	212	369	6	11	9	13	104	159	56	116	518	722	401	699
家族関係・人間関係	21		24		37		53(3)		86		157		5		4		55		60		204		298	
就園・就学・進学	0		0		2		0(0)		8		0		1		5		1		2		12		7	
幼稚園・保育園・小中学校・高校	0		6		2		1(0)		8		2		7		21		0		2		17		32	
家計・金銭	4	67	29	62	33	102	26(0)	57(0)	15	89	28	128	0	0	2	3	26	70	58	159	78	328	143	409
生活支援	63		33		69		31(0)		74		100		0		1		44		101		250		266	
就労	41		2		46		20(0)		55		14		0		0		100		14		242		50	
社会参加・余暇活動	0		4		5		3(0)		6		2		0		1		1		2		12		12	
権利擁護	3		0		6		3(1)		0		0		0		0		1		3		10		6	
差別解消・合理的配慮	0		0		0		0(0)		0		0		0		0		0		0		0		0	
発達相談	3		1		0		0(0)		0		0		23		42		0		0		26		43	
子育て・育児	10		8		11		8(0)		5		13		21		37		1		1		48		67	
安否確認	12		23		1		10(10)		0		2		0		0		9		2		22		37	
その他	1		0		2		64(25)		4		4		0		0		0		1		7		69	
合計	569		417		436		488(63)		1,113		1,047		159		189		763		731		3,040		2,872	

※（）は地域生活支援拠点等の件数

③期間における相談の傾向と所感	【傾向と所感】 ・引き続き生活全般に対する支援や相談、手続きなどの申請サポートが多かった。（郵便物の確認、さわやか収集・配食サービス、住居の修繕や改修、アパートの更新手続きなど） ・新型コロナウイルスの影響としては、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の中、サービスを継続利用し特に問題なく生活を維持されている方が多かった。ワクチン接種に関しては安全性への不安の訴えや接種方法に関する相談がみられた。また、独居知的障がい者の予約代行手続き・予診票作成・接種券管理の相談や、市からの依頼で聴覚障がいの方にかかりつけ医電話予約をサポートした。 ・サービスの利用がないため、ケアマネージャーがついていない高齢障がい者の一般相談が多くなっている。地域包括支援センターと各ケースごとに検討する等、今後の連携のあり方を協議していきたい。 ・日本語が通じない外国市民障がい児へ、母語が同じヘルパーを調整し通院等介助を依頼することで、医師との意思疎通が可能になりインフォームド・コンセントの実現ができた世帯がある。その結果今後の治療方針や必要な補装具申請手続きなどスムーズに行うことができたが、福祉サービスや行政手続きの説明は難しい場面がある。愛知県等が普及に務めている『やさしい日本語』や市役所に事前予約制の通訳やボランティア団体以外にも、必要な手続きの説明がわかるよう多言語のリーフレット等があると良いと感じた。	【傾向と所感】 ・新規の相談状況については、親亡き後の準備のためにどのような資源があるかなどの相談が多かった。新規相談者の中で継続的に関わりが必要なケースは少なく、そのようなケースにはすでに計画相談がついている場合が多かった。 ・計画相談が普及したことで、福祉サービス以外の困りごとを本人や家族が抱えていた際、計画相談員から委託相談に繋がるケースが徐々に増えてきている。 ・成年後見制度についての相談が以前より徐々に多くなっている。権利擁護センターを一概に挟むのではなく、身近にいる相談員を希望されることもあり、成年後見制度の申し立てを相談員が支援する機会が多くなっている。 ・２～３月は、卒業後に関する措置児童や課題が多い生徒の支援が多い。また、それに伴い措置先や学校などとの連携が多くなる。 ・課題が発生してから相談員に繋がるまでに時間を要し、かすがいへ繋がった時点では課題が複雑化していたケースが複数あった。本人や家族が問題だという意識が無くても、地域の中で誰かが気づいたときに相談員へどのように繋げてもらうことができるか、方法を検討し見出す必要があると感じる。	【傾向と所感】 ・高齢の親や親の相談を受けた介護保険関係者や民生委員からの相談でJHNまあるに繋がったケースなど「8050問題」といわれる相談が複数ある。これまでは親世代が何とか抱えていたが、高齢になり経済的にも体力的にも難しくなりやっと相談に繋がったケースもあれば、障がい福祉サービスは使っていたが親世代が関われなくなり問題が表面化したケースもあった。相談対象者の中には精神科等に通院している方もみえれば、過去に受診歴があるが現在は精神科等の受診もない方、そもそも病気や障がいがあるかどうかも明確には判断できない方もみえて、各ケースごとで対応や介入の仕方、連携を取る関係機関も異なる。相談が途切れないように、丁寧な関係作りを必要としている。すぐに何かしらの制度や福祉サービス等の利用ができない方などは民生委員や近所の人と連絡を取り合って見守りをお願いしているケースもある。全てを医療や福祉サービスで支えるのは無理なので継続した見守りや支援者に繋ぐなど、地域で関わりを持てる仕組み作りが必要だと感じている。 ・病状や障がい特性があることで、コミュニケーションが苦手なため家族関係や人間関係がうまくいかないことに加え、本人を取り巻く家族関係や人間関係、環境に左右され問題がこじれてしまうケースが複数あった。対処法を一緒に考えながら、必要に応じて環境に働きかける支援も行なっている。 ・虹の会参加者：2月9名、3月7名、4月8名、5月7名、6月6名	【傾向と所感】 ・相談の傾向としては、療育の利用に関する内容や、子どもへの対応方法や関わり方についての相談が複数あった。新型コロナウイルスの影響で、プレ幼稚園の中止や子育てセンター等の臨時休館で、保護者同士の交流や他児との関わりの機会が減っていることで、発達について不安や心配が大きくなっているケースもあった。 ・計画相談が始まり3年経ち、相談支援専門員の横の繋がりができたこともあり、計画相談支援のケースを一緒に考えることが出てきている。 ・医療的ケア児に関する相談がいくつかあった。医療的ケアが必要な子どもが、保育園の入園や就学先の学校の受入体制等の理由で調整がスムーズに進まなかったり、きょうだい児の育児で資源がなく困っているという内容があった。子育て支援として、障がい福祉分野だけの課題ではないと感じている。 ・保護者が日本語でのやり取りが難しい外国人のケースでは、事業所見学等の場面でコミュニケーションが難しく、細かなニーズをとらえるのに苦慮することがあった。 ・児童発達支援事業所や放課後等デイサービスを探しているといった相談では、「園や学校から療育の利用を勧められているが利用する必要があるのか？」や、「家庭内での子どもの不適切行動に対して、どう関わっていいのか」など子どもの発達状況の把握や対応方法に関する相談がある。保護者が問題に焦点をあてすぎて困り感を解消することができない場合があるため、子どもの行動を客観的に把握したり、保護者の心配や不安を取り除くような機会が必要と感じている。	【傾向と所感】 ・今後の支援方針について、本人、家族、計画相談員の意見が合わず、本人の意思決定が困難な状況に陥ったケースがあった。また、本人が最低限の生活を行うためのサービスを拒否するケースもあり、本人の意思決定についての難しさを感じた。 ・地域包括支援センターや愛知県地域生活定着支援センター、自立支援相談コーナーなどの機関から支援の依頼を受けたが、本人が支援を必要としておらず、つながらなかったケースが数件あった。本人に病識が無く障がいを認めていない場合や障がいかどうかが確定していない場合においては、他の困りごと（困窮やひきこもりなど）からのアプローチを試みる必要があるが、改めて介入の困難さを感じた。 ・福祉サービスや公的な制度だけでは解決できず、NPOやボランティア、社会福祉法人の社会貢献制度などのインフォーマルサービスを利用しながら相談を行ったケースが数件あった。本人の思いを実現するために、体験の機会・場所などが必要で地域の社会資源の「質と量の充実」が求められるがまだまだ充足しているとは言えない。社会資源の充実には、フォーマル・インフォーマル双方の視点が欠かせないため、個を支える地域づくりが必要となる。	



障がい種別割合（4月～6月）

	春日苑	かすがい	JHNまある	あっとわん	しゃきょう
身体障がい	48.4%	15.4%	2.0%	14.1%	21.0%
知的障がい	25.6%	67.0%	0.6%	10.1%	15.8%
精神障がい	15.9%	14.4%	73.0%	0.0%	47.0%
その他	10.1%	3.3%	24.5%	75.8%	16.2%